

【資料2】

角田市第6次総合計画策定支援業務

第2回角田市長期総合計画審議会資料

2020年11月4日

【目次】

1. 基礎調査の分析検証	1. 1 基礎データ	P2
	1. 2 周辺市町との比較からみた特性	P5
	1. 3 角田市を取り巻く時代の潮流、環境の変化	P8
2. 市民意識調査、施策評価の分析検証	2. 1 市民意識調査および施策評価の概要	P9
	2. 2 市民意識調査および施策評価の分析検証結果	P11
3. 人口ビジョンを踏まえた課題整理	3. 1 推計人口の将来フレーム	P14
	3. 2 人口の将来展望に向けた課題抽出	P15

1. 基礎調査の分析検証_基礎データ

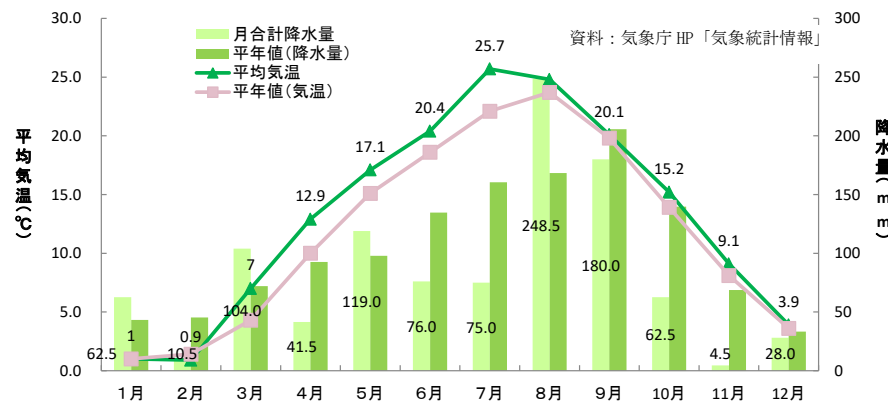
角田市の基礎データに基づき、自然的特性、居住者特性、産業特性、土地利用の特性および経済特性を角田市の強みとなる事象と弱みとなる事象に整理。

◆ 角田市の基礎データ【自然的特性(気象・歴史)、居住者特性(人口・世帯)】

強み(Strengths)【強みとなる事象】

○ 雪も少なく東北地方の中でも温暖な気候

■ 2018年の気象状況(丸森)



○ 古来、信仰心が篤い地域であり、南西部に斗蔵山、北西部に高蔵寺や阿弥陀堂など、国指定重要文化財が分布

○ 宇宙航空研究開発機構の設置など、都市を特徴づける産業の誘致、展開を図っている。

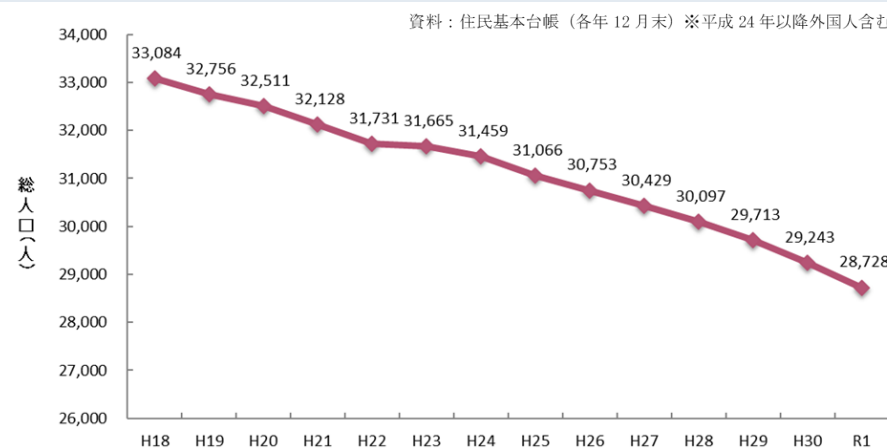
○ 阿武隈川が南北を貫流し、流域に肥沃な耕土が広がっている。

弱み(Weaknesses)【弱みとなる事象】

● 市の中心部を流れる阿武隈川やその他の河川により氾濫被害がくり返し発生

発生時期	概要
昭和31年7月	集中豪雨で角田橋左岸および角田橋流失
昭和33年9月	台風22号の大雨で阿武隈川や内川などが氾濫
昭和61年8月	台風10号が勢力を弱めた熱帯低気圧が齎した豪雨により河川が氾濫
令和元年10月	台風19号の豪雨被害により、多くの河川が破堤・越水し、浸水被害が発生

● 人口は減少傾向(▲3,400人/10年)。出生数の低下傾向により少子高齢化の進行が顕著。



● 世帯数は世帯分離等により微増であるが、世帯当り人員は低下傾向。自然減・社会減ともに増加傾向にあるが、特に自然減の割合が高い。

● 人口集中地区の人口密度は低下傾向にあり、中心市街地の集積の低下が顕著。

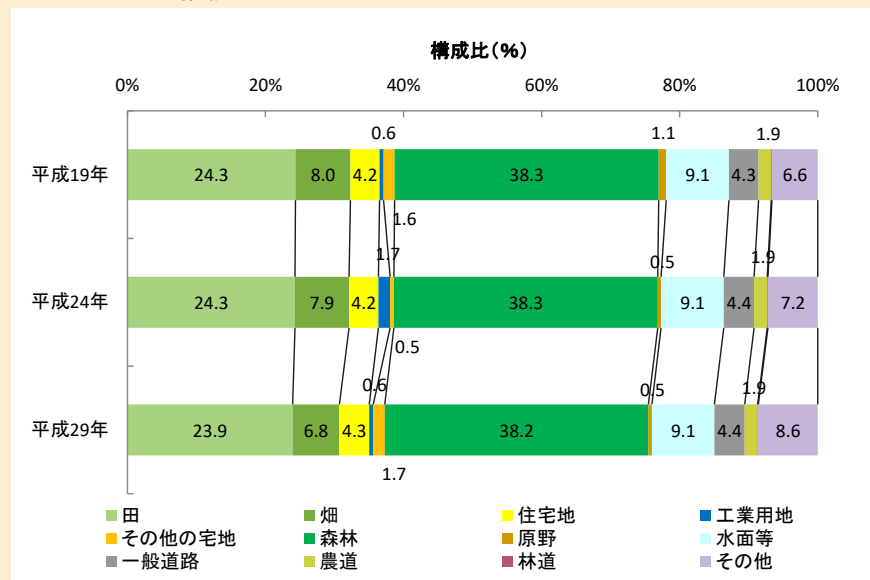
1. 基礎調査の分析検証_基礎データ

◆ 角田市の基礎データ【産業特性(通勤・通学)、土地利用の特性(土地利用、法適用状況)】

強み(Strengths)【強みとなる事象】

- 国勢調査によれば、流入超過で従業地としての役割を担っている。
- 緑豊かな山地に囲まれた盆地状の地勢。森林と農地が全体の約70%を占めており、自然環境保全地域や緑地環境保全地域に指定されている。

■ 土地利用区分の推移



資料：土地利用現況等把握調査

- 都市計画区域は行政区域面積の約25%、用途地域は約6%を占めている。用途地域は、工業系の指定割合が38.4%と宮城県平均(24.5%)と比較して高い。

弱み(Weaknesses)【弱みとなる事象】

- 常住地による就業者数及び従業地による就業者数はともに減少傾向。就業者の流入は柴田町、丸森町、大河原町および亶理町からの流入が過半数を占め、流出は、柴田町、仙台市、丸森町および大河原町で過半数を占めている。
- 少子化や高校の共学化に伴う統合を背景に学生数は減少傾向にあり、通学者数は流出者数・流入者数ともに減少傾向にある。

■ 就業者の流入と流出の状況の推移

年次	常住地による就業者数(人)	流出		従業地による就業者数(人)	流入		昼夜間比(%)
		就業者数(人)	流出率(%)		就業者数(人)	流入率(%)	
平成7年	17,704	5,528	31.2	17,252	5,076	29.4	97.4
平成12年	17,183	5,903	34.4	17,478	6,198	35.5	101.7
平成17年	16,474	6,082	36.9	17,470	7,078	40.5	106.0
平成22年	14,691	6,073	41.3	16,060	7,219	45.0	109.3
平成27年	14,408	6,033	41.9	15,541	7,121	45.8	107.9
H17-H27増減率	△12.5%			△11.0%			

資料：国勢調査

■ 15歳以上通学者の流入と流出の状況の推移

年次	常住地による通学者数(人)	流出		通学地による通学者数(人)	流入		昼夜間比(%)
		通学者数(人)	流出率(%)		通学者数(人)	流入率(%)	
平成7年	2,360	1,315	55.7	1,564	463	29.6	66.3
平成12年	2,093	1,059	50.6	1,402	368	26.2	67.0
平成17年	1,819	1,037	57.0	1,074	292	27.2	59.0
平成22年	1,398	938	67.1	800	300	37.5	57.2
平成27年	1,264	761	60.2	793	286	36.1	62.7
H17-H27増減率	△30.5%			△26.2%			

資料：国勢調査

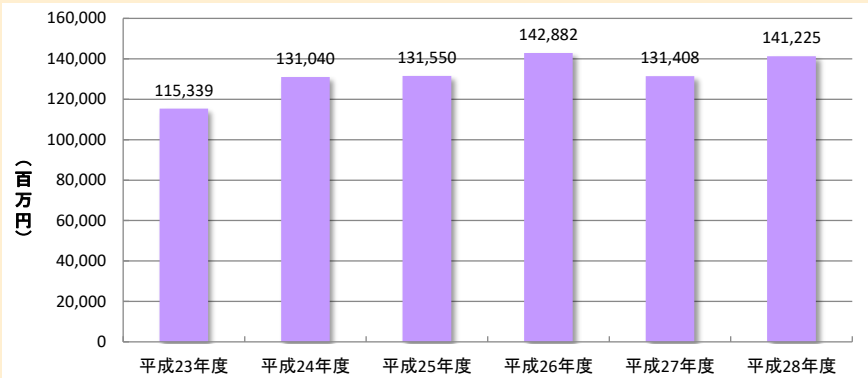
1. 基礎調査の分析検証_基礎データ

◆ 角田市の基礎データ【経済特性(市内総生産、商工農)】

強み(Strengths)【強みとなる事象】

○ 宮城県の平成28年度市町村民経済計算によれば、電機・自動車部品メーカーや日用生活用品等製造販売の企業のほか、宇宙航空研究開発機構のエンジン燃焼実験等、多様な産業集積による生産拠点が立地。市内総生産の5割強を占める製造業は、平成28年度には、平成23年度比50.2%の増加で、市内総生産全体としても22.4%増加している。

■ 市内総生産額の推移(実額)



資料：平成28年度市町村民経済計算(宮城県)

○ 農業系の特産は米、大豆および梅など(ブランド化)

○ 「宮城の商圈」によれば、丸森町から買物先としての流入がみられ、最寄品の購入先としては市内が9割強を占めている。

弱み(Weaknesses)【弱みとなる事象】

● 宮城県の平成28年度市町村民経済計算によれば、一人当たり市民所得は、宮城県の一人当たり県民所得の約9割強で推移。

■ 一人当たり市民(県民)所得の推移

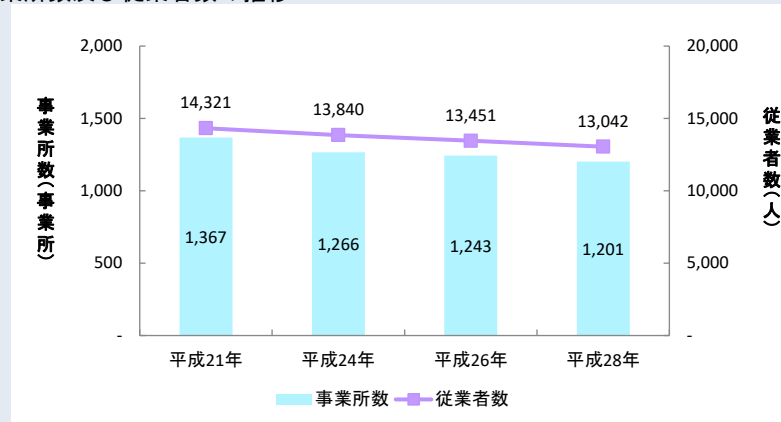
(単位：千円)

	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度
角田市	2,325	2,549	2,622	2,743	2,719	2,714
宮城県	2,474	2,675	2,759	2,871	2,982	2,940
対県比	94.0	95.3	95.0	95.5	91.2	92.3

※宮城県の一人当たり県民所得は、平成28年度宮城県経済計算による県民所得を住民基本台帳人口(各年12月末・外国人含む)で除して算出

● 最近10年の民間事業所数及び従業者数は減少傾向にある。

■ 事業所数及び従業者数の推移



資料：経済センサス

● 平成28年経済センサスによれば、事業所数は卸売・小売、宿泊・飲食サービス業、建設業で約50%を占めている。

● 「宮城の商圈」によれば、買回品は名取商圈および大河原商圈への流出が多く、両商圈に含まれる。

1. 基礎調査の分析検証_周辺市町との比較からみた特性

白石市、岩沼市、大河原町、柴田町、丸森町、亶理町、山元町の周辺7市町や、仙南地域および宮城県の指標について比較し、角田市の位置づけを把握。

◆ 基礎的指標

角田市の特性

○ 人口・世帯数(平成12年～平成27年)

角田市の人口は減少傾向にあるが、仙台市に近接する岩沼市、柴田町などの人口は増加傾向。

地域名	人口増減(人)	人口増減率(%)	世帯数増減(世帯)	世帯数増減率(%)	世帯当り人員増減(人/世帯)	世帯当り人員増減率(%)
角田市	▲4,174	▲12.1	509	5.15	▲0.57	▲16.43
白石市	▲5,521	▲13.5	183	1.48	▲0.49	▲14.89
岩沼市	3,271	7.9	3,496	26.62	▲0.47	▲14.92
大河原町	1,031	4.5	1,539	20.36	▲0.40	▲13.29
柴田町	40	0.1	1,871	14.12	▲0.37	▲12.42
丸森町	▲3,896	▲21.8	▲222	▲4.66	▲0.67	▲17.87
亶理町	▲1,181	▲3.4	1,591	16.33	▲0.61	▲17.09
山元町	▲6,222	▲33.6	▲733	▲14.20	▲0.81	▲22.56
周辺7市町	▲12,478	▲5.8	4,125	6.25	▲0.44	▲13.21
宮城県	979,970	72.4	111,354	13.36	▲0.37	▲13.03

資料：国勢調査

年少人口・生産年齢人口の割合は、宮城県平均や周辺7市町の水準を下回り、老年人口の割合は上回っている。

出生率は、8市町の中では相対的に低い一方、高齢化率は相対的に高く、周辺都市に比べ少子高齢化の傾向が顕著。

○ 通勤・通学

■ 通勤(平成27年)

周辺市町は就業者の流出率が高いものの、角田市は流入超過となっている。角田市と岩沼市は昼夜間比が100%以上と周辺市町の中でも従業地としての役割が高い。

地域名	常住地による就業者数(人)	流出		従業地による就業者数(人)	流入		昼夜間比(%)
		就業者数(人)	流出率(%)		就業者数(人)	流入率(%)	
角田市	14,408	6,033	41.9	15,541	7,121	45.8	107.9
白石市	16,667	5,811	34.9	15,864	4,971	31.3	95.2
岩沼市	21,116	11,883	56.3	21,680	12,403	57.2	102.7
大河原町	11,200	6,820	60.9	9,854	5,452	55.3	88.0
柴田町	17,946	10,228	57.0	14,797	7,059	47.7	82.5
丸森町	6,704	3,174	47.3	5,220	1,680	32.2	77.9
亶理町	16,137	9,218	57.1	11,460	4,501	39.3	71.0
山元町	5,678	2,771	48.8	5,410	2,477	45.8	95.3

資料：国勢調査

1. 基礎調査の分析検証_周辺市町との比較からみた特性

◆ 基礎的指標

角田市の特性

■ 通学(平成27年)

白石市は流入率が高くなっているのに対し、角田市のほか白石市を除く周辺市町は流出率が高く、流出超となっている。

地域名	常住地による通学者数(人)	流出		通学地による通学者数(人)	流入		昼夜間比(%)
		通学者数(人)	流出率(%)		通学者数(人)	流入率(%)	
角田市	1,264	761	60.2	793	286	36.1	62.7
白石市	1,491	797	53.5	1,724	1,027	59.6	115.6
岩沼市	2,248	1,669	74.2	1,337	750	56.1	59.5
大河原町	1,066	745	69.9	1,000	679	67.9	93.8
柴田町	3,112	1,340	43.1	2,817	1,043	37.0	90.5
丸森町	527	312	59.2	346	130	37.6	65.7
亶理町	1,641	1,175	71.6	730	260	35.6	44.5
山元町	508	415	81.7	110	14	12.7	21.7

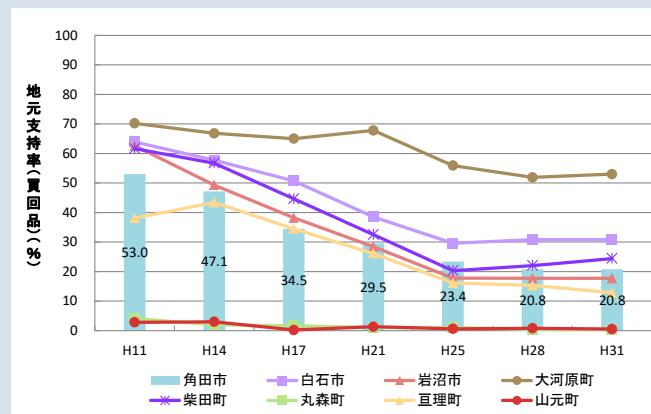
資料：国勢調査

○ 商圈

買回品購買先としての地元支持率は平成25年まで各市町とも減少傾向がみられ、その後は概ね横這い傾向。角田市の買回品の地元支持率は、平成31年には20.8%と平成11年と比較すると4割程度の水準に低下。

最寄品購買先の市内での購買率は概ね8割強で推移。

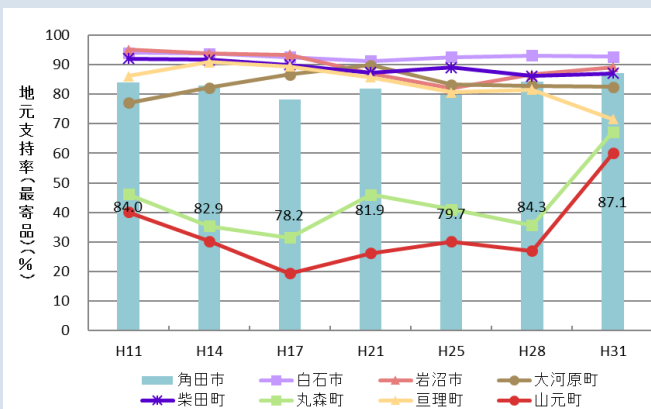
■ 買回品購買先としての地元の支持率



資料：宮城の商圈

注：買回品…衣料品、靴、バッグ、アクセサリ、スポーツ・レジャー用品、CD・本・雑誌、家庭電化製品、贈答品

■ 最寄品購買先としての地元の支持率



資料：宮城の商圈

注：最寄品…野菜・魚・肉などの食品、日用雑貨品、化粧品、雑誌など

1. 基礎調査の分析検証_周辺市町との比較からみた特性

「安心度」、「利便度」、「快適性」、「成長力」および「裕福度」の5つの視点から 周辺市町、宮城県および全国と比較し、角田市の位置づけを把握。

◆ 都市評価

○ 評価の方法

都市評価として、日常生活における「安心度」および「利便度」、公共施設の整備等による「快適性」、産業の状況などからみた「成長力」、都市の財政基盤からみた「裕福度」の5つの視点(※)から個別の評価指標を設定のうえ、県平均を50とした場合の偏差値を比較し、角田市の位置づけを把握。

○ 総合評価

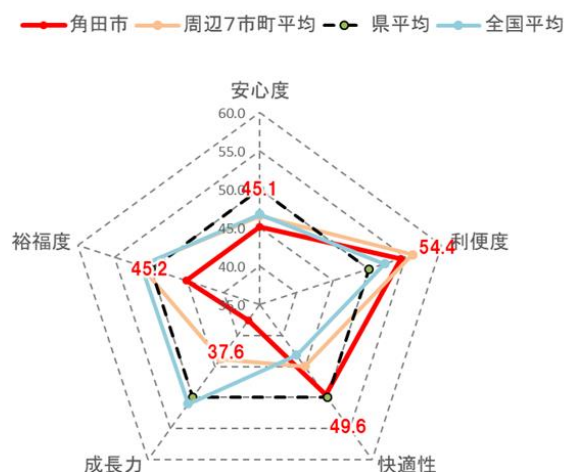
角田市は、待機児童数が少なく、また公共公益施設の整備状況が相対的に高いため、「利便度」が宮城県、全国より高い。また、「快適性」は、周辺7市町及び全国を上回り、ほぼ宮城県平均になっている。一方、「安心度」、「成長力」、「裕福度」は周辺7市町、宮城県、全国と比較して最も低い。

【平成21年度の評価との比較】

・安心度	44.7 ⇒ 45.1	・利便度	57.2 ⇒ 54.4
・快適性	54.8 ⇒ 49.6	・成長力	43.1 ⇒ 37.6
・裕福度	47.8 ⇒ 45.2		

角田市の特性

■ 角田市、周辺7市町、宮城県及び全国の総合評価



※各指標の内訳である個別指標の偏差値の平均値をとり、総合偏差値とした。

※周辺7市町には角田市は含まない

安心度は、ポイントが上昇しているが、その他の項目は低下。これは、周辺7市町においては、柴田町、大河原町の交通軸上の都市集積のほか、沿岸部の亘理町、山元町における復興投資による影響もあると考えられる。

※ 都市評価指標の考え方（平成21年度調査と比較するため、同様の指標を設定）

視点	個別指標
安心度	人口当たり交通事故発生件数、人口当たり火災発生件数、人口当たり病床数、人口当たり医師数、65歳以上人口当たり介護老人福祉・介護保健施設定員数
利便度	人口当たり小売事業所数、人口当たり金融・保険業事業所数、人口当たり保育所待機児童数、人口当たり図書館数、人口当たり体育館数、人口当たり小売業売場面積
快適性	人口当たり都市公園面積、公共下水道普及率、道路改良率、1住宅当たり延べ面積、リサイクル率
成長力	人口当たり出生数、生産年齢比率、人口当たり社会増数、人口当たり工業製品出荷額、人口当たり小売業販売額、世帯数当たり新設住宅着工戸数
裕福度	人口当たり地方財政歳入額、財政力指数、人口当たり地方財政歳出額、住宅地地価、人口当たり市町村民所得、持ち家世帯比率

1. 基礎調査の分析検証_角田市を取り巻く時代の潮流、環境の変化

角田市を取り巻く時代の潮流、環境の変化を 角田市にとって「追い風(機会)」となる事象と「ネガティブ(脅威)」となる事象に整理。

◆ 角田市を取り巻く時代の潮流、環境の変化

機会 (Opportunities) 【追い風となる事象】

- SDGsを踏まえた持続的発展
2015年9月の国連サミットにおいて、2030年を年限として17の国際目標、169のターゲット、232の指標が決められ、本市が担う行政施策に直接かかわる項目も多く位置付けられている。今後の総合計画においては、持続可能な開発目標、地域づくりとして、SDGsと関連づけた取組みが期待されている。
- ICTやSNSの活用によるコミュニケーションの変化
市民一人ひとりが携帯情報端末を有し、生活の中でICTを活用した情報共有や創造的な活用が市民レベルで行える時代となっており、コミュニケーションの形態も変化している。行政情報については、タイムリーかつわかりやすい情報発信が求められるとともに、市民意見を反映した市民参画型行政運営が期待されている。
- 近未来技術によるイノベーション(スマート自治体への転換)
情報通信を活用したビッグデータを収集し、AIを活用して分析や効率化を図るなどのイノベーション(技術革新)により多様化する行政需要に応えるスマート自治体への転換が求められている。スマート自治体への転換に向け、情報通信技術の行政運営への活用に向けた人材育成や運営体制の構築を進めるとともに、システム導入へ向けた検討等が必要となる。
- 地域特性を活かした交流機能の拡大
ヒト・モノ・カネ・情報が世界的な広がりをもって活発に行き交う状況にあり、国内外の多様な交流が必要不可欠な時代となっている。また、社会経済環境や市民のニーズが多様化する中、これまでの産業振興に加え、交流人口の拡大に向けた取組みの重要性が高まっている。

脅威 (Threats) 【ネガティブな事象】

- 人口減少・超高齢・少子化の進展による社会ニーズの変化
日本の人口は2005年をピークに総人口が減少に転じ、減少基調が継続。角田市においても、東日本大震災直後は一時増加したものの、その後は自然動態、社会動態ともにマイナスで推移、人口はこの10年間で1割減少。
人口減少は、生産力の低下や納税者層の縮小に加え、医療や福祉需要の増大と、それをまかなう現役世代の負担の増加による経済への影響が懸念されており、行政サービスのあり方も、先を見越した現実的な転換を図る運営が望まれる。
- 大規模災害や感染症問題の発生
地球温暖化の進行は、世界各地で異常気象や生態系への影響など、様々な事象をもたらしている。また、グローバル社会の進展による人の往来の頻度が高まるにつれ、多様な感染症のリスクも高まり、必要な対策を速やかにとることができる体制整備が重要となっている。
- 財政制約のもとでの優先施策の推進
自然災害の影響や人口減少などを背景とした税収の減少が財政を一層硬直化させていることにくわえ、市民の行政に対する意識は多様なサービスを求めるよう変化しており、行政だけでまちづくりを進めることが困難になっている。こうした中、施策の優先順位について市民ニーズや経済的な効果や効率を踏まえて合理的な判断により検討し、的確に進めていく必要がある。

2. 市民意識調査、施策評価の分析検証_市民意識調査および施策評価の概要_市民意識調査の内容

市民意識調査は16歳以上の市民3,000人を対象に実施。 調査票の回収率は市全体で41.0%。

◆ 調査の目的

市民のまちづくりに関する意識・ニーズ等を広く把握し、角田市第6次長期総合計画の策定に向けた基礎資料とすることを目的とする。

◆ 調査の概要

項目	内容
調査対象(配布数)	16歳以上の市民3,000人(住民基本台帳より無作為に抽出)
調査期間	令和2年5月22日～令和2年6月8日
配布・回収方法	郵送配布・郵送回収
回収結果	回収票1,230票(回収率41.0%)

◆ アンケート調査票の構成

アンケート調査票は、「回答者の属性」、「角田市での暮らしについて」、「角田市の取り組みについて」、「これからのまちづくりの課題と方向性について」、「角田市の環境政策やあなたの環境意識について」、「令和元年東日本台風等の被災経験を教訓とした今後の施策について」及び「自由意見」の6つの構成を基本に意向把握を行った。

また、現行の長期総合計画(角田市第5次長期総合計画)に掲げる『54の主要施策』についての「満足度」と「重要度」の評価を実施した。

◆ 満足度および重要度の評価区分

満足度および重要度の評価区分は4段階で構成

	評価区分
満足度	満足 ・ やや満足 ・ やや不満 ・ 不満
重要度	重要である ・ やや重要である ・ あまり重要でない ・ 重要でない

◆ 回収状況

アンケート調査票の回収状況は下表のとおり、市全体で41.0%の回収率となった。

男女別の回収率は女性が男性を8.1%上回り、年代別では70歳代の56.7%が最も高い。

表 年代別回収数・回収率についての想定との対比

	配布数	回収数	回収率	回収数の内訳		
				男	女	無回答・無効
10歳代(16～19歳)	250	63	25.2%	21	42	0
20歳代	450	135	30.0%	55	80	0
30歳代	500	170	34.0%	76	93	1
40歳代	500	207	41.4%	88	119	0
50歳代	500	209	41.8%	90	119	0
60歳代	350	185	52.9%	83	100	2
70歳代	300	170	56.7%	83	85	2
80歳代以上	150	78	52.0%	44	32	2
無回答・無効		13		0	2	11
		1,230	41.0%	540	672	18

2. 市民意識調査、施策評価の分析検証_市民意識調査および施策評価の概要_施策評価の内容、分析検証方法

施策の評価は、後期基本計画や重点プロジェクトの項目毎に市職員が点検を実施。 市民意識調査と施策の評価の結果の分析検証では、評価区分に基づき点数化を実施。

◆ 市職員による施策評価

第5次長期総合計画後期基本計画および計画実現に向けた重点プロジェクトの各項目について、「進捗状況」および「今後の方向性」の観点から、右記の評価区分に基づき点検を実施。

	評価区分
進捗状況	順調 ・ 概ね順調 ・ やや遅れている ・ 遅れている
今後の方向性	拡大改善 ・ 手法改善 ・ 現状維持 ・ 縮小改善 ・ 廃止、休止 ・ 完了、終了

◆ 分析検証方法

市民意識調査における「満足度」および「重要度」、市職員による施策の評価結果における「進捗状況」および「今後の方向性」の各評価区分に応じて、以下のように点数を配点のうえ項目毎に平均を算出し、その平均点に50を乗じたものを評点とした。

【市民意識調査結果】

満足度・効果	配点	重要度	配点
満足 など	2	重要である	2
やや満足 など	1	やや重要である	1
わからない	0	わからない	0
やや不満 など	▲1	あまり重要でない	▲1
不満 など	▲2	重要でない	▲2

【市職員による施策の評価結果】

進捗状況	配点	今後の方向性	配点
順調	2	拡大改善	2
概ね順調	1	手法改善	1
やや遅れている	▲1	現状維持	0.5
遅れている	▲2	縮小改善	▲1
		廃止、休止	▲2
		完了・終了	—

（留意事項）

市職員による施策の評価では、方向性を示す評価項目として「拡大改善」「手法改善」「縮小改善」等を設定したが、施策の優先順位および財政上の制約等により、必ずしも「拡大改善」が最良の方向性になるとは限らないものの、仮に点数化した場合の結果として示している。

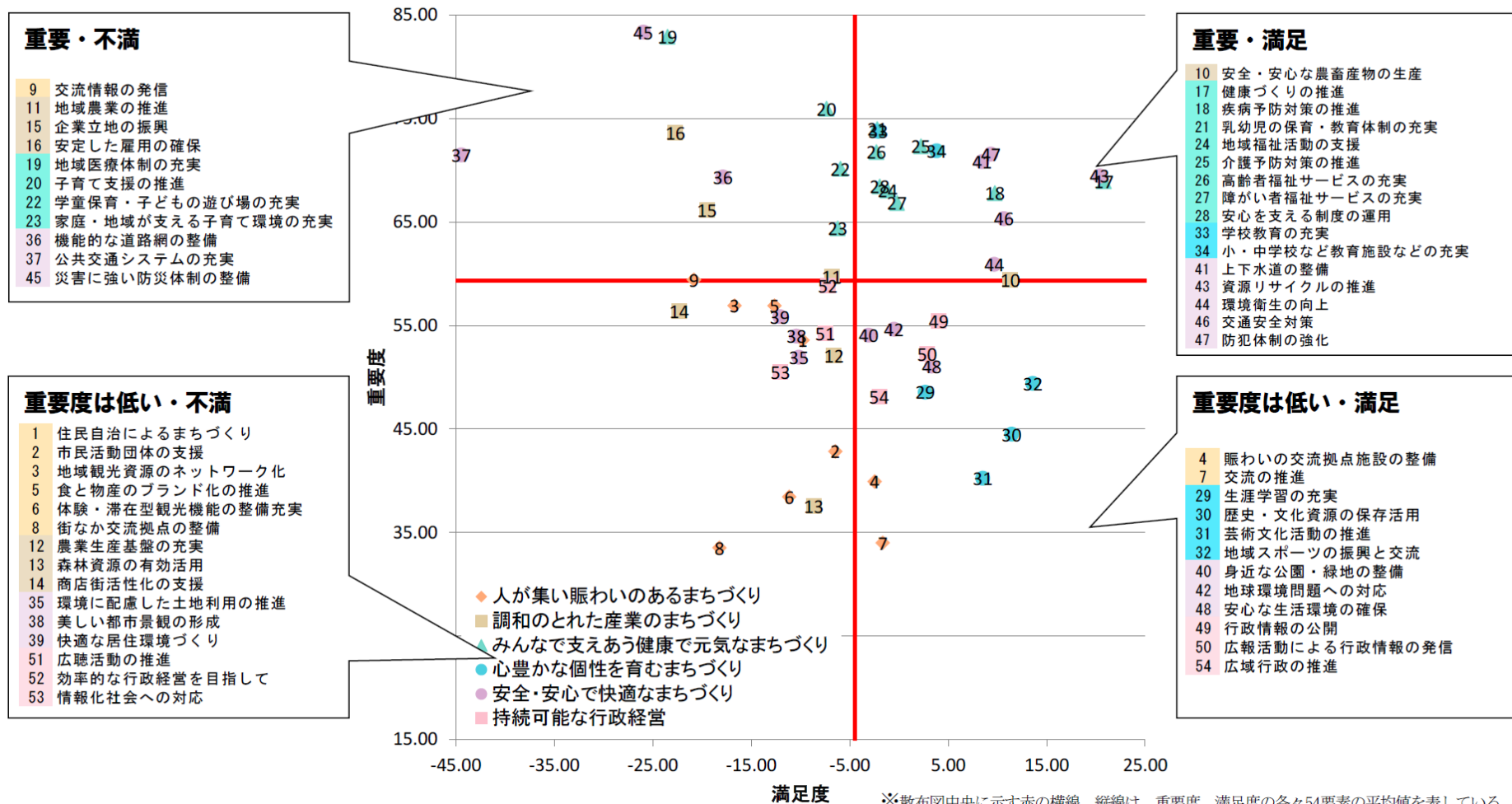
【評点算出式】

$$\text{市民意識調査} = \frac{(\text{「満足(重要)」} \times 2 \text{点} + \text{「やや満足(やや重要)」} \times 1 \text{点} + \text{「やや不満(あまり重要でない)」} \times \text{▲}1 \text{点} + \text{「不満(重要でない)」} \times \text{▲}2 \text{点}) \times 50}{\text{回答総数(無回答除く)}}$$

$$\text{施策評価} = \frac{(\text{「順調(拡大改善)」} \times 2 \text{点} + \text{「概ね順調(手法改善)」} \times 1 \text{点} + \text{「現状維持」} \times 0.5 \text{点} + \text{「やや遅れている(縮小改善)」} \times \text{▲}1 \text{点} + \text{「遅れている(廃止・休止)」} \times \text{▲}2 \text{点}) \times 50}{\text{評価項目数}}$$

2. 市民意識調査、施策の評価分析検証_市民意識調査および施策評価の分析検証結果_市民意識調査
市民が「満足」と考えている施策は、「心豊かな個性を育むまち」に関する施策が多く、「不満」と考えている施策は、「調和のとれた産業のまち」に関する施策が多い。また、「重要」と考えている施策は、「みんなで支えあう健康で元気なまち」に関する施策が多い。

【満足度・重要度からみた各主要施策の位置づけ】

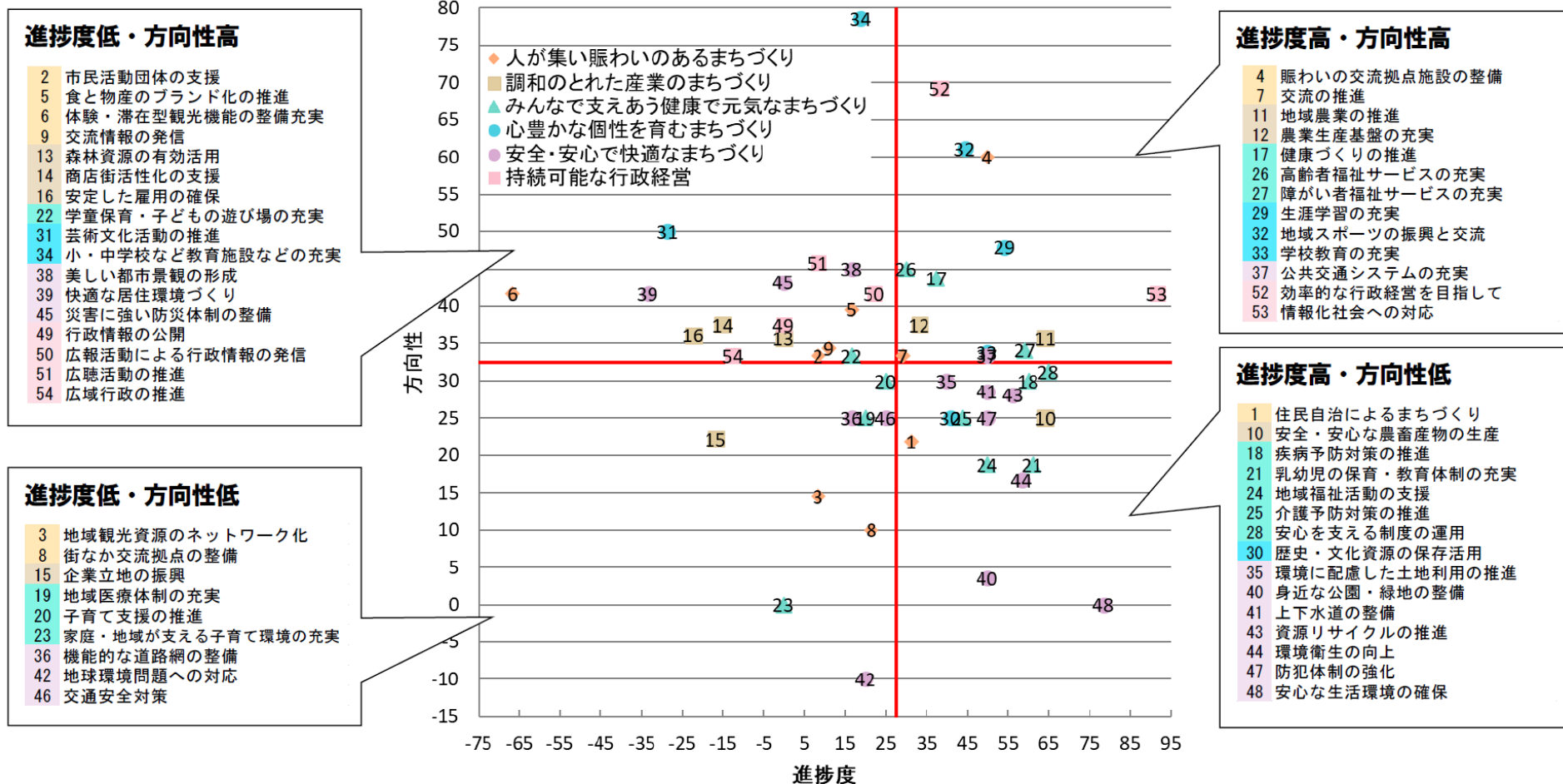


2. 市民意識調査、施策評価の分析検証_市民意識調査および施策評価の分析検証結果_施策評価

市職員が「進捗度が高い」と考えている施策は、

「みんなで支えあう健康で元気なまち」に関する施策が多い。また、「今後の方向性が高い」と考えている施策は、「心豊かな個性を育むまち」に関する施策が多い。

【進捗度・方向性からみた各主要施策の位置づけ】



※散布図中央に示す赤の横線、縦線は、進捗度、方向性の各々54要素の平均値を表している。

2. 市民意識調査、施策評価の分析検証_市民意識調査および施策評価の分析検証結果_特徴的な施策

市民意識調査と市職員による施策評価の結果から、 今後の角田市の課題・将来像を検討するにあたり、特徴的な施策を抽出。

○市民は「重要・満足」と考えており、
市職員は「今後の方向性が高い」と考えている施策

17	健康づくりの推進
26	高齢者福祉サービスの充実
33	学校教育の充実
34	小・中学校など教育施設などの充実

○市民は「重要・不満」と考えており、
市職員は「今後の方向性が高い」と考えている施策

16	安定した雇用の確保
22	学童保育・子どもの遊び場の充実
37	公共交通システムの充実
45	災害に強い防災体制の整備

○市民は「重要・不満」と考えており、
市職員は比較的「今後の方向性が低い」と考えている施策

19	地域医療体制の充実
20	子育て支援の推進
23	家庭・地域が支える子育て環境の充実
36	機能的な道路網の整備

○市職員は「今後の方向性が高い」と考えており、
市民は比較的「重要度が低い」と考えている施策

4	賑わいの交流拠点施設の整備
31	芸術文化活動の推進
32	地域スポーツの振興と交流
52	効率的な行政経営を目指して

○市職員は「進捗度が高い」と考えており、
市民は「不満」と考えている施策

11	地域農業の推進
37	公共交通システムの充実
53	情報化社会への対応

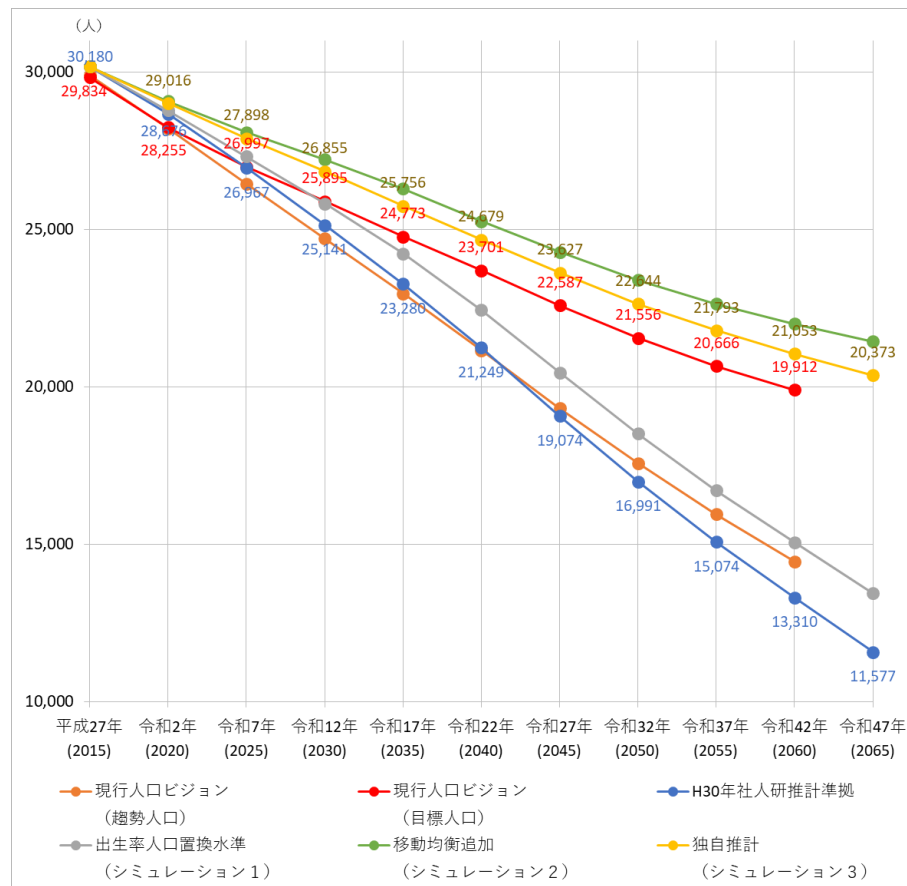
○市職員は「進捗度が低い」と考えており、
市民は「不満」と考えている施策

9	交流情報の発信
14	商店街活性化の支援
15	企業立地の振興
16	安定した雇用の確保

3. 人口ビジョンを踏まえた課題整理_推計人口の将来フレーム

現行の人口ビジョンの目標人口を上回るためには、人口移動を均衡に保ちつつ、合計特殊出生率を人口置換水準にまで引き上げる必要がある。

【角田市将来推計人口】



パターン	平成27年 (2015)	令和2年 (2020)	令和7年 (2025)	令和12年 (2030)	令和17年 (2035)	令和22年 (2040)	令和27年 (2045)	令和32年 (2050)	令和37年 (2055)	令和42年 (2060)	令和47年 (2065)
現行人口ビジョン (趨勢人口)	29,906	28,210	26,454	24,715	22,969	21,162	19,323	17,570	15,951	14,458	
現行人口ビジョン (目標人口)	29,834	28,255	26,997	25,895	24,773	23,701	22,587	21,556	20,666	19,912	
H30年社人研推計準拠	30,180	28,676	26,967	25,141	23,280	21,249	19,074	16,991	15,074	13,310	11,577
出生率人口置換水準 (シミュレーション1)	30,180	28,791	27,327	25,827	24,243	22,445	20,455	18,510	16,711	15,058	13,440
移動均衡追加 (シミュレーション2)	30,180	29,082	28,089	27,222	26,299	25,267	24,283	23,392	22,637	22,003	21,441
独自推計 (シミュレーション3)	30,180	29,016	27,898	26,855	25,756	24,679	23,627	22,644	21,793	21,053	20,373

※赤の網掛けは目標人口を上回っていることを示す

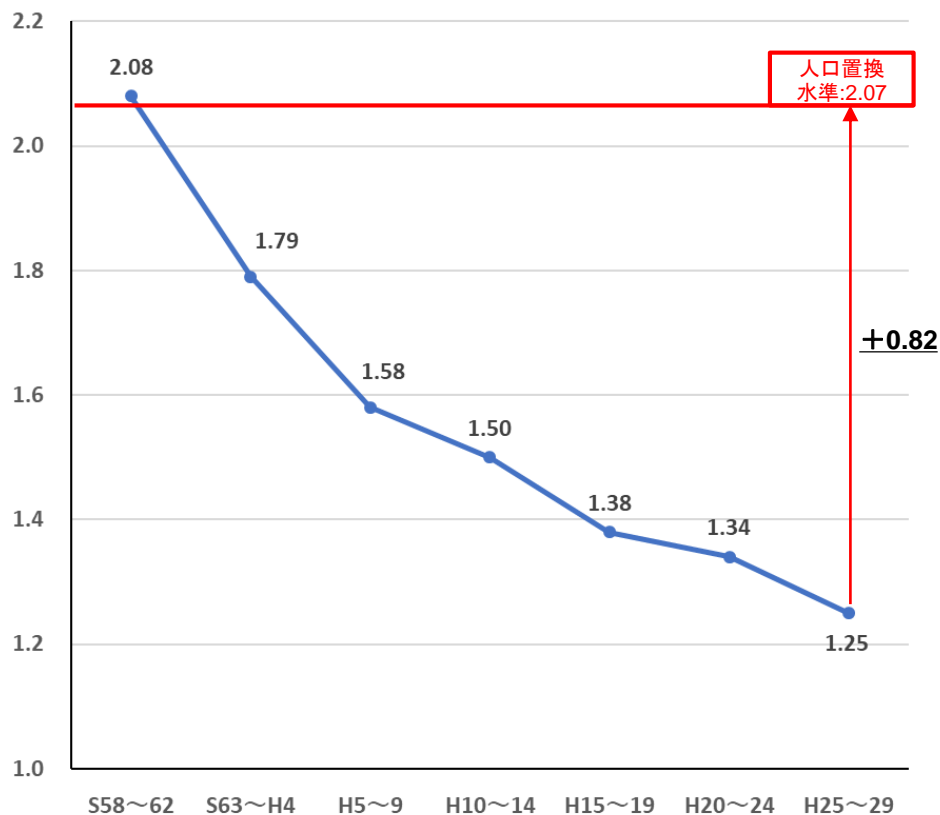
推計パターン	設定条件
① 社人研推計準拠	<ul style="list-style-type: none"> ・国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口 (平成 30 年推計)」に準拠 ・同推計では、出生や死亡に関する仮定は、平成 25 年に行われた前回推計と同様、最近の傾向を踏まえて設定 ・他方、移動の仮定については、前回推計が一定程度の移動の縮小を仮定していたのに対し、今回推計では最近の傾向が今後も続く仮定となっていることに留意が必要
② 出生率人口置換水準 (シミュレーション 1)	<ul style="list-style-type: none"> ・「社人研推計準拠」において、合計特殊出生率が令和 12 (2030) 年までに人口置換水準程度 (2.1 程度) まで上昇すると仮定した場合のシミュレーション
③ 移動均衡追加 (シミュレーション 2)	<ul style="list-style-type: none"> ・シミュレーション 1 に加え、(直ちに) 移動 (純移動率) がゼロ (均衡) になることを仮定した場合のシミュレーション
④ 独自推計 (シミュレーション 3)	<ul style="list-style-type: none"> ・「まち・ひと・しごと創生長期ビジョン (令和元年改訂版)」を踏まえて、現状から徐々に上昇し、令和 12 (2030) 年から合計特殊出生率が 1.8 程度、令和 22 (2040) 年から 2.07 程度になると仮定 ・令和 2 (2020) 年から移動 (純移動率) がゼロ (均衡) になることを仮定

※ 人口置換水準：人口が増加も減少もしない均衡した状態となる合計特殊出生率の水準

3. 人口ビジョンを踏まえた課題整理_人口の将来展望に向けた課題抽出

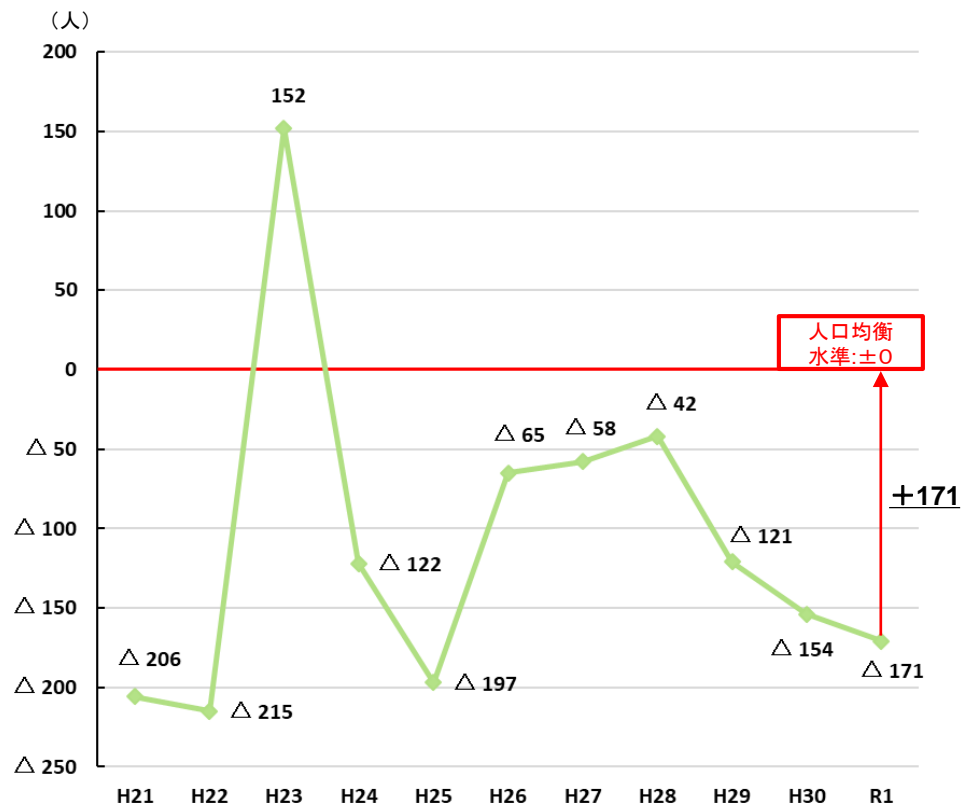
現在の水準から勘案すると、合計特殊出生率の人口置換水準への大幅な引き上げ、および転出超の状況が続く社会動態の均衡は大きなハードルとなる。

【角田市合計特殊出生率推移】



出所: 「人口動態保健所・市区町村別統計」 (厚生労働省)

【角田市社会動態推移】



出所: 「住民基本台帳に基づく人口移動調査年報」 (各年12月末、総務省)